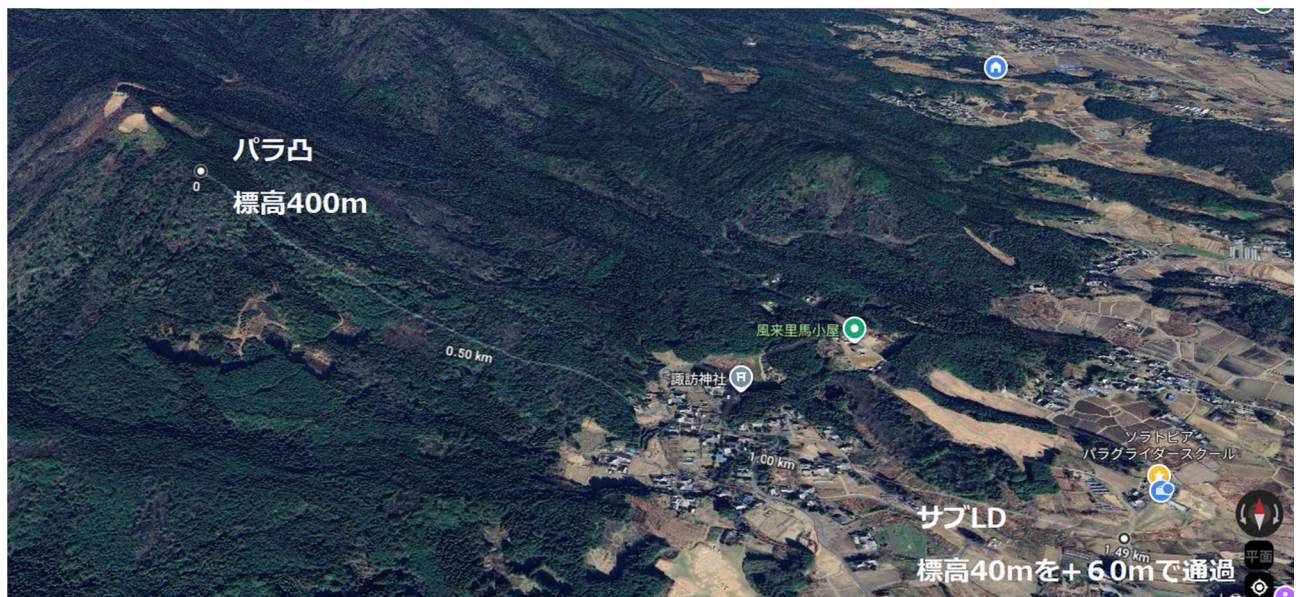


第 1 回 サブランディングについて

ソラトピアのサブランディングはメインランディングに**余裕のある高度**を残して帰ってこれない時の為にありますが、サブランディングがあるからといって、無理して低くまで粘る事は自分の危険を増す行為になります。

⑤ 大原則『メインランディングに余裕のある高度を残して帰る』



- 余裕のある高度とは？
サブ LD 電線の3倍(標高 80m)以上 → サブ LD 高度処理空域で標高 100m 以上
- 尾根先から帰る目安は？その理由？
パラ凸より低くなったら
- よくある悪い例
粘りすぎ、サーマルの探し過ぎ、風下に流し過ぎ
- 上昇風と同じくらい下降風(シンク)に敏感になろう
下降風は高度をロスする非常に大きな要因 「二度と近寄らない」くらいの警戒が必要
- 常に高度と自分の位置を把握しながら飛ぼう
「車にとってのスピードメーター」より「パラにとっての高度計」の方が非常に重要な情報
高度(位置エネルギー)がパラの動力源

⑥ サブランディングは難しいランディング



● 難しい理由

① 狭い

東西 100m 南北 50m

メインランディングの 1/3 の面積

② 東側に電線が隣接

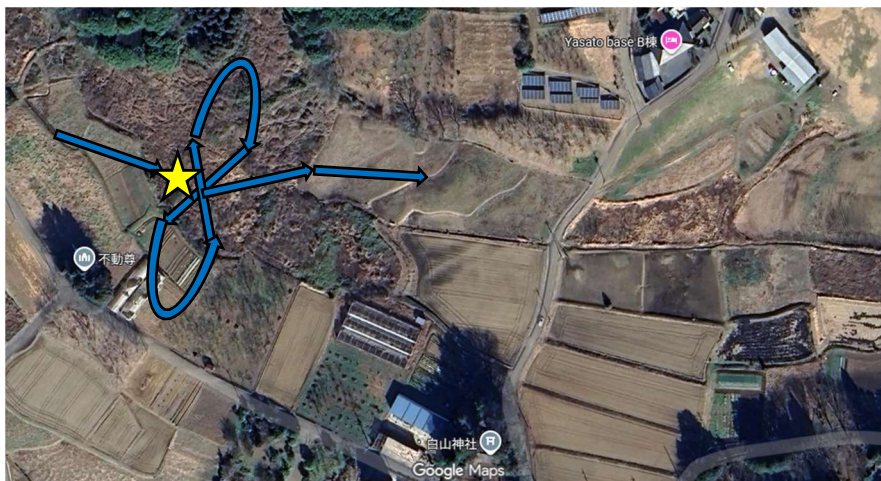
東側からの侵入はほぼ不可能

③ 北側が丘で木も生えているので高度処理の空域として使えず、低高度の侵入が不可能。

北側の nasa のパラ LD の尾根筋からの風が強い場合 (3m/s 以上) は、非常に不安定な風になりやすい

⑦ サブランディングの高度処理(アプローチ)

● 通常の東～南東風のアプローチ(難易度: 普通～やや高い) ★ 決断ポイント



- 決断が遅くなった時のアプローチ（非常に難しく危険） ※極力お勧めしません



- 特殊な西風のアプローチ（難易度が高いので不可避免の場合を除いて非推奨）



- 悪い例（高度処理の決断が遅れ、左に旋回すると北側の樹木に激突しやすい）

